

新オプションのご案内

# 3Dマンモグラフィ

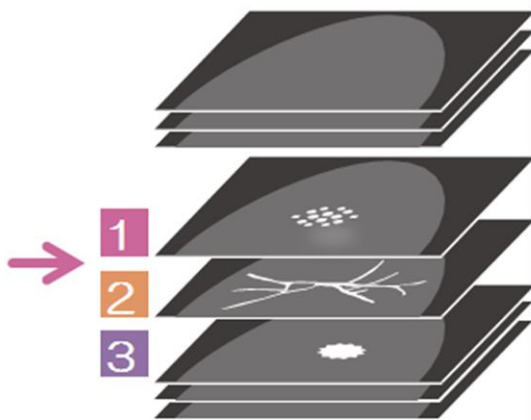
(トモシンセシス)

3Dマンモグラフィは、乳房を1mm程度の断層画像として撮影するため乳腺組織の重なりを少なくした画像になり、より詳細に乳腺の構造や病変を認識することができます。そのため、精度の高い診断と乳がんの早期発見が期待されます。



1回の圧迫で複数の角度から撮影します

トモシンセシス



2D画像



断層画像 (3D画像)

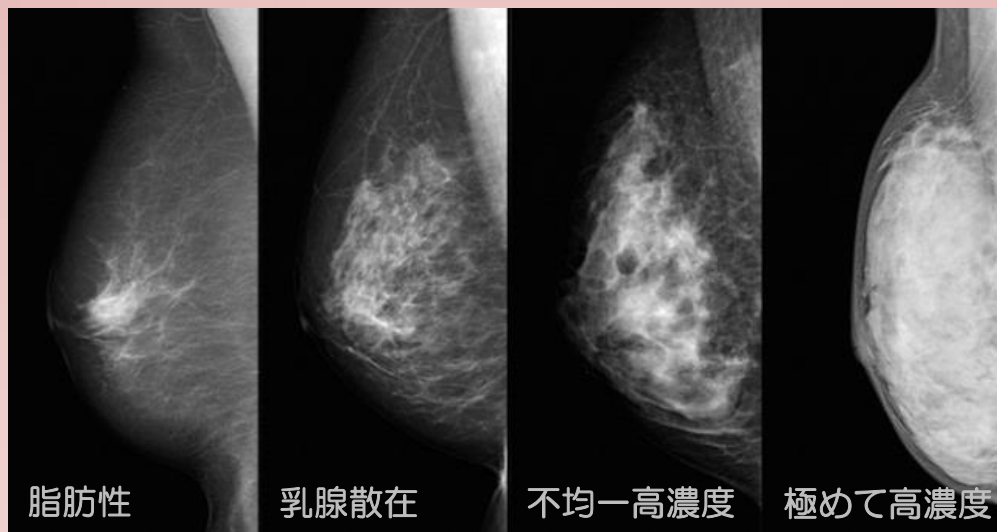


乳腺組織の重なりを少なくした画像になり、より詳細に乳腺の構造や病変を認識することができます

乳腺組織や病変が1枚の画像に重なっているため、乳腺の構造や病変を認識しにくい場合があります

2Dマンモグラフィ(2方向)に3Dマンモグラフィ(1方向)を追加しても、放射線被曝量は日本のガイドラインに定められている範囲内です。

従来の2Dマンモグラフィは、乳房全体を1枚の画像として撮影するため乳腺組織が重なり合った画像になります。乳腺組織の厚さには個人差があり、厚いほど重なりが多い画像になります。この重なりにより、乳腺の構造がよく見えなかったり、病変が隠れてしまうことがあります。



低い ← 乳腺濃度 → 高い  
高濃度乳房

濃度が薄くて微細な乳腺構造の乱れや小さなしこりの形が明瞭ではなく診断が難しい場合がある。

白く濃く描出される乳腺に病変が隠れてしまったり、乳腺の重なりにより病変がないにもかかわらず病変のように見えてしまう場合がある。

対象者 : 40歳以上  
(妊娠中・授乳中、人工物挿入、自覚症状のある方は対象外)

検査内容 : 従来の2Dマンモグラフィ2方向に追加して、  
3Dマンモグラフィ1方向を撮影します。

料金 : 2Dマンモグラフィに追加して、**2,200円(税込)**  
(2Dマンモグラフィは市町村、健保等の補助をご使用いただけます。)

検査日 : 月～土曜日

予約 : 受診2週間前までの予約が必要

☆2Dマンモグラフィと3Dマンモグラフィを総合判定して結果報告いたします。  
☆相澤健康センターが推奨する乳がん検診の受診間隔と検査の組み合わせは別リーフレット『乳房検査(乳がん検診)について』をご参照ください。

ご予約・お問い合わせ

社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター

TEL 0263-34-6360 月～金曜日 8:30～16:30 土曜日 8:30～12:00

# 乳房検査(乳がん検診)について

## 【検査の種類】

### マンモグラフィ検査

乳房専用のレントゲン検査です。圧迫することで乳腺を広げてできるだけしこりなどの病変と分離させて見やすくします。微細石灰化や構築の乱れを見つけやすいです。

### 乳房超音波検査

ゼリーを塗って専用の器具でなでるように検査をします。放射線被曝はないので、授乳中や妊娠中の方も検査することができます。しこりや乳管内病変を見つけやすいです。

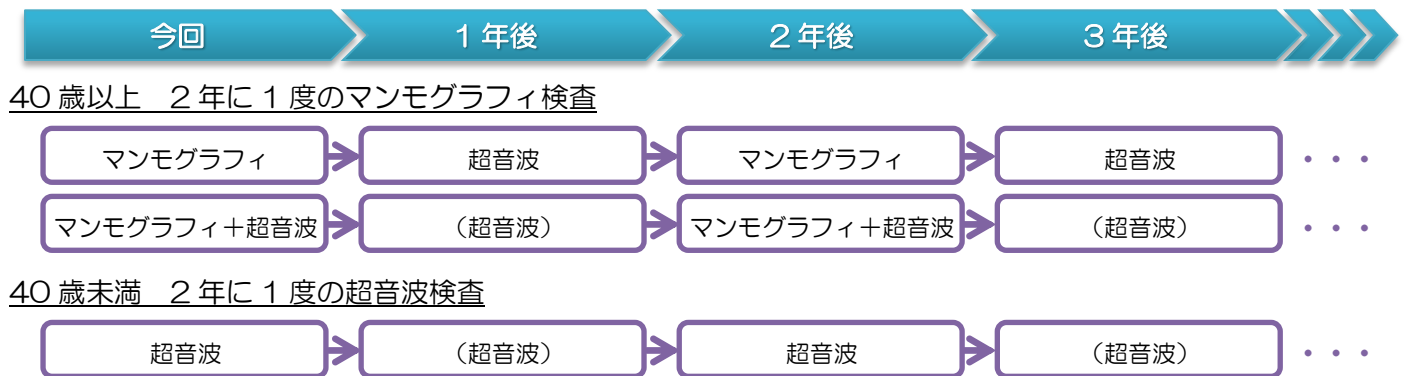
### 視触診検査

乳房の状態を診察し、乳房のひきつれやしこり、腋窩リンパ節の腫れ、乳頭分泌などの変化を診る検査です。必ず画像検査と一緒に検査をします。

## 【乳がん検診の受診間隔と検査の組み合わせ】

乳がん検診は、厚生労働省の指針により、40歳以上で2年に1度のマンモグラフィ検査が推奨されています。これは対策型検診とあって、公的補助を利用して受診する検診です。対策型検診としての乳房超音波検査については、有用性について検討されているところであり、今後、導入も期待されます。

[相澤健康センターの推奨受診例]



市町村によって、補助の方法は少しずつ違いがあり、例えば松本市の場合は、超音波検査は30歳以上で毎年補助の対象です。また、マンモグラフィ検査は40歳以上で2年に1度は補助の対象となるので、40歳以上はどちらか一方の画像検査で毎年補助を利用することができます。

## 【乳がん検診の利益・不利益】 これらを知った上で乳がん検診を受診して下さい。

[利益]

- 乳がん死亡率の減少効果、早期発見でQOL(生活の質)の高い治療を受けられる、乳がん患者の医療費削減等があります。

[不利益]

- 過剰診断：生命予後に影響を及ぼさないがんの診断のことです。がんの成長速度が遅く、生涯症状がなく命を奪わないがんを発見することです。
- 偽陽性：がんがないにもかかわらず精密検査が必要と判定されることです。精密検査による心理的・経済的負担、身体的苦痛を受ける可能性があります。
- 偽陰性：がんがあるにもかかわらず異常なしと判定されることです。高濃度乳房によるマンモグラフィ検査の病変検出率の低下や超音波検査ではわかりにくい微細石灰化などは、検査で100%発見することはできません。
- 放射線被曝：マンモグラフィ検査による放射線被曝量は、放射線を使った他検査に比べて決して多くはありません。40歳以上であれば2年に1度の「検診による乳がん死を防ぐ割合」が「検診放射線被曝の不利益で死亡する割合」を上回るといわれています。40歳未満の方がマンモグラフィ検査を受けることで放射線被曝による不利益を被る場合があります。
- 疼痛：マンモグラフィ検査では疼痛を伴う場合があります。